

大 学 名	京都大学	学 問 分 野	学際・複合・新領域
専 攻 等 名	防災研究所		
拠点のプログラム名称	災害学理の究明と防災学の構築		
拠点リーダー氏名	河田 恵昭	所属部局・職	防災研究所・教授
プログラムの概要	<p>防災研究における世界のCOEを目指して、社会の防災ニーズを的確に反映し、学際融合的防災研究を推進し、若手研究員との共同研究を通じた人材育成を実施して、研究成果の共有と情報発信のための国際シンポジウムの開催するとともに、サテライト・オフィスでの公開講座などを通して研究成果を発信する。</p>		
拠点形成の目的・必要性	<p>近年、地球温暖化による気象・水象災害の激化・頻発化が懸念される。また21世紀前半は地震活動期にあたり南海トラフ沿いに海溝型の巨大地震災害の発生や大都市直下地震の発生が高い確度で予想されている。わが国の安全/安心を脅かす自然災害発生の危険性が高まっており、早急の対応が必要となっている。一方、社会の高度化・複雑化を反映して、自然災害の様態が極めて複雑化し、複合災害の様相を示すようになってきており、社会的インパクトが極めて大きく、大災害に脅かされている。そこで、日本のCOEから世界のCOEとなるべく、巨大大災害技術の洗練、安全/安心社会の実現のための基礎条件の明示および災害に粘り強い地域コミュニティを形成に貢献する。</p>		
研究拠点形成実施計画	<p>つぎのようないくつかの事業を実施する。</p> <p><社会の防災ニーズを的確に反映した学際融合的防災研究の推進> 防二一三、生活空間の再生技術・戦略に関する研究、(2)「防災情報の作成・伝達と災害リスクマネジメントに関する新技術の研究」を推進する。</p> <p><若手研究員との共同研究を通じた人材育成> 人研究を行なう。具体的には、(1)国内外のポストドクレベルの期限付き研究員の受け入れ、(2)海外からの短期研究員との共同研究の推進、(3)アジアを中心にした長期研究員との国際共同研究体制の確立。</p> <p><研究成果の共有と情報発信のための国際シンポジウムの開催> 各種共同研究の成果を広く発信することも研究拠点の重要な使命である。そこで、国内で開催される国際シンポジウムを支援する。</p>		
教育実施計画	<p>今後とも、京都大学の教育の一翼を担い、教育プログラムと教育制度の整備を行う。大学院教育においては、災害調査、フィールドワーク、大型研究施設・観測所における実験・観測などを奨励し、実学としての防災研究のOJT(On the Job Training: 職場内教育)を行う。さらに、防災分野のCOEとして行ってきた、米国・カリフォルニア大学バークレー校、米国・カリフォルニア工科大学、カナダ・ウォータールー大学などとの交流協定に基づく交換留学と、単位取得のための修士課程学生の派遣を一層推進するとともに、世界トップレベルの災害・防災関係研究教育機関との交流協定を積極的に拡充し、例えば、Special Program on Disaster Prevention/Mitigation Studiesといった事例スクールを開講し、国際的災害・防災教育の質的・量的向上を促進する。そして新たな雇用するとも、教育機会の増大と効率化、研究のアカウンタビリティの向上のためのスペースをレンタルして、京都と東京にサテライト・オフィスを開設する。</p>		

学際、複合、新領域

災害学理の究明と防災学の構築

Natural Disaster Science and Disaster Reduction

京都大学防災研究所

研究拠点リーダー 河田恵昭

何を目指すか

防災研究における
日本のCOEから世界のCOEへ

どのように実現するか

教育機会の拡大と効率化、研究の
アカウンタビリティ向上のための
サテライトオフィスの設置

- (1) 京都オフィス
- (2) 東京オフィス

教育実施計画

若手研究者との共同研究を
通じた人材育成

- (1) 国内外からポスドク研究員の受け入れ
- (2) 海外からの短期研究員の受け入れ
- (3) アジアを中心に長期研究員の受け入れ

研究成果の共有と情報発信のための
国際シンポジウムの開催

研究拠点形成実施計画

社会の防災ニーズを的確に反映した
学際融合的防災研究の推進

- (1) 「都市の災害脆弱性診断と生活空間の
再生技術・戦略に関する研究」,
- (2) 「防災情報の作成・伝達と災害リスク
マネジメントに関する新技術の研究」